

例会報告

第331回 「秋の蛤岳登山と自衛隊基地見学」

脊振町—神埼郡吉野ヶ里町（2023.10.22）

澄み渡る青空の下、朝の脊振山山頂は冷気に包まれた。今日は脊振山山頂にある航空自衛隊の脊振レーダー基地内を通り、蛤岳を目指すコースに挑戦だ。少々歩く距離が長いのが気になるが、休憩をこまめに入れながら秋の脊振山系を楽しみたい。

今回は、基地内に入るため名簿の提出が必要だった。案の定、早速ゲートで名簿による人物確認が行われた。一瞬緊張したが、全員晴れて基地内への立ち入りが許された。

基地内は舗装道路が尾根に沿って遙か先まで続き、用途別に様々な形状のレーダー施設が点在している。この基地は主に玄界灘、九州北部の空を監視しており、日本国民の命を守る最先端の砦だ。標高が高く山頂にあるため、雷も横や下から襲ってくるそうで、基地の施設や設備も避雷針などで守られている。しばらく歩くと管理施設が見えてきた。体育館や運動場もある。想像以上に敷地内は広い。管理棟の屋上に上がらせてもらった。北は福岡、南は佐賀、大パノラマが広がり、遠く長崎や熊本まで見渡せる。隊員の方が異口同音に言われるのが「今日のような晴天は滅多にない。いつもは深い霧に、そして冬場は雪に覆われている。」という状況説明だ。私たちはとても運がとてもよいらしい！ 建物内には売店や食堂などもあり、トイレも含め隅々まで掃除が行き届いている。

案内いただいた隊員の皆さんに別れを告げ、フェンスから外に出た。いよいよ登山道を蛤岳目指して進む。水場ではミネラル？豊富な冷たい水を味わいながら、山頂目指してひたすら歩く。蛤岳山頂には真っ二つに割れた様が蛤に似ている巨石が鎮座しており、南東に開けた展望を味わった。山頂を下ると蛤水道が現れ、ここから昼食場所となる成富兵庫茂安の功績を讃えた記念碑を目指す。昼食前は、空腹と疲労感で満身創痍の子ども達も、食後、高取先生から蛤水道の歴史を聞く頃にはすっかり元気を取り戻した。説明では、資料が配られ、水路の途中にあった野越（のこし）という場所の役割など、実際に通ってきた場所などの説明を受けた。

復路は通常の登山と違い、“登り”となる。覚悟を決めて出発！蛤水道の現流域ではいくつも沢を横切りながら歩く。秋は草木もたくさんの実をつける。ツルに丸い実をつけるのは、私が狙っていたムカゴ。子ども達にも生（なま）で味わってもらった。結構な距離を歩くため疲労感がピークに達しそうで、ひたすら「もうすぐ…」という私の励まし（慰め？）の言葉も子ども達には効かなくなった。ジャッピー号遭難の説明板があるところまで来ればゴールの山頂駐車場はもうすぐだ。走るようにして登る子どもたちを横目に、パンパンに張った太ももを揉みほぐしながらやっとのことでゴールした。15時55分、予定より10分遅れで無事解散、帰路につく。

ミヤコザサをかき分けて進んだり、サンショウの葉の匂いを嗅いだり、スギヒラタケの大きな株に驚いたり、ムカゴの生のとろとろ感を味わったり…と、少年団の“実物を現地で直接体験”というモットーを十二分に体感できた一日となったのではないだろうか。

最後になったが、休日にもかかわらず快く基地内をご案内いただいた航空自衛隊脊振山分屯基地の皆さんに厚く感謝申し上げます。（文責：井上英史 参加者：13名）



脊振山山頂広場に集合



脊振山分屯基地内を特別に散策



分屯基地内の施設について説明を受ける



来場記念品をいただく



山道にて（行きは下りでした）



水場でひと休み



蛤岳山頂にて



井上先生から山椒の葉の説明を聞く